

令和6年度
第41回

道徳と特別活動 の教育研究賞

審査評◎道徳の部

文部科学大臣賞 最優秀賞

愛媛県松前町立北伊予小学校

(代表 渡部陽子)

〔団体〕

豊かにかかわり、よりよく生きようとする児童の育成 ―自分ごととして向き合い、考えを深める道徳科の授業の工夫―

各学校においては、全ての児童の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けた工夫に尽力しているところである。令和三年一月の中央教育審議会の答申では、それぞれの学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることを求めている。

愛媛県松前町立北伊予小学校の研究実践は、学校研究主題を「豊かにかかわり、よりよく生きようとする児童の育成―自分ごととして向き合い、考えを深める道徳科の授業の工夫―」として授業実践を積み重ねた。研究主題の「よりよく生きようとすること」を児童自身が自らを振り返って成長を実感したり、今

後の課題や目標を見つけたりして自己の生き方についての考えを深めることと規定し、具体的な学習として、副題にあるように、児童が道徳的価値に関わる諸事象を自分事として捉え、他者の多様な価値観に触れることで、自らの考えを深めることを重視している。

授業構想に際しては、学校が独自に作成した「教材分析シート」を活用し、発問構成を工夫しながら、児童が自己の生き方についての考えを深めるような指導を試みたところである。こうした授業における児童の学びは、人間としての在り方、生き方に興味・関心をもち、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深め、今後の思いや課題を培おうとする主体的な学びを実現したものと言える。

また、児童が多様な価値観に気付き、考えを深めるために、発達の段階に応じた話合いを促す「あいあいタイム」を設定したことが興味深い。話合いの具体的なめあてや、話合いを進めるためのヒントを提示するなどの工夫がなされている。この学習は、前述の主体的な学びを基盤とした対話的な学びであり、おのずと深い学びにつながるものである。課題としては、ねらいとする道徳的価値を視点とした一層の教材分析の充実などが挙げられるが、総じて、各学校の授業改善に生かせる実践研究と言える。

(帝京大学教授 赤堀博行)